

ブックスタートが保護者の意識に与える影響

16A1A003 木内桂子

こども心理学部 通信教育課程 指導教員 藤後悦子教授

キーワード：ブックスタート、読み聞かせ

目的

小学館 (2019) やコンビ (2010) のアンケートによると、子育てを「つらい」「もう無理」と感じる保護者は少なく、子育て早期の支援およびその周知の必要性がうかがえる。有効な活動の一つとして、自治体の複数部署と地域住民が連携して行う「ブックスタート」があげられる。

「ブックスタート」とは1992年にイギリスで始まった「全ての赤ちゃんとそのまわりで楽しくあたたかいひとときが持たれることを願い、一人ひとりの赤ちゃんに絵本をひらく楽しい体験と共に、絵本を手渡す活動」である (NPO ブックスタート, 2014)。日本でも現在全国多数の域で実施されており、先行研究においてその効果も認められている。しかし筆者在住の千葉県旭市の実施状況を見ると懸念される点も認められ、調査の必要性が感じられた。

そこで、旭市の保護者を対象にブックスタートの事後調査を行い、保護者の意識、問題点、改善点を検討、結果を今後の活動に活かし子ども達の健やかな成長の一助となることを本研究の目的として、以下の仮説を立てた。

仮説1 ブックスタートの理念に沿って実施されていれば先行研究と類似した結果が得られる。

仮説2 読み聞かせ頻度が高く、読み聞かせ経験がある保護者の方がブックスタートを肯定的に捉えている。

仮説3 子どもと一緒に絵本を開くことには、子どもの年齢によって異なる「困り事」が存在する。

仮説4 保護者が期待する「子どもと絵本を楽しむことの効果」は子どもの成長と共に変わる。

方法

対象者は旭市でブックスタートを受けた1歳児保護者および3歳児保護者とした。調査期間は2019年8月～12月、自記式、選択肢回答法の質問紙調査を行った。のべ275名に健診会場等で対面で質問紙を配布、回答は後日郵送回収し1歳児保護者35名、3歳児保護者39名 (母親73名、父親1名、 $M=35.2$ 歳、 $SD=5.09$) 計74名の有効回答を得た。

質問紙の構成はフェイスシートで回答者および子どもの属性と、回答者の読書好意度を4件法、家庭での読み聞かせ頻度を5件法、幼少時読み聞かせ経験の有無を5件法で回答を求めた。先行研究との比較のため、ブックスタートの評価を12項目4件法で、4点の配布物の満足度を5件法で、生活の変化について14項目5件法でそれぞれ回答を求めた。課題の検討のため、NPO ブックスタート(2014)を参考に子どもと絵本を楽しむ上での困り事を8項目6件法で、原崎・篠原・彌永・渡邊 (2016) を参考に子どもと絵本を一緒に見ることの効果を13項目6件法で作成し回答を求めた。

結果

1. 子どもの年齢および出生順位における読み聞かせの実態
まず保護者の読書好意度、家庭での読み聞かせ頻度、幼少時の読み聞かせ経験の有無について子どもの年齢別に比較したところ、いずれも1歳児保護者の方が高い平均値を示していた。次に子どもと絵本を楽しむ上での困り事、子どもと絵本を一緒に見るものの効果における年齢と出生順で比較したところ、困りごとにおいては年齢、出生順により平均値の高い項目が異なる結果となった。効果においては年齢別で

は全ての項目で1歳児保護者の方が3歳児保護者よりも高い平均値を示していた。出生順では13項目中11項目において第2子の保護者が他より低い値となっていた。

2. 旭市と先行研究との比較

配布物の満足度、ブックスタート後の生活の変化、家庭での読み聞かせ頻度のいずれも先行研究と大差はなく、概ね類似した結果が得られた。

3. 読み聞かせ頻度と経験によるブックスタートの評価の違い

ブックスタートの評価について因子分析を行い、「ブックスタート満足感因子」「情報収集因子」「読み聞かせ困難感因子」の3つの因子について対応のないt検定を行った。読み聞かせ頻度においては、頻度が低い方が有意に読み聞かせ困難感が高かった ($t(59.67) = 2.62, p = .01$)。読み聞かせ経験においては、経験が有る方がブックスタート満足感が有意に高く ($t(20.46) = 3.23, p < .01$)、情報収集に関する評価も有意に高かった ($t(20.08) = 2.33, p = .03$)。

考察

仮説1については、先行研究と類似した結果が得られたので支持されたと考える。仮説2についても、t検定の結果から支持されたと考えよう。仮説3については、「困り事」の存在は認められたが年齢による差は考えにくいと一部支持されたと考える。仮説4については、子どもの成長による変化とは考えにくいと、支持されなかったと考察する。

結果より、旭市のブックスタートは概ね理念に沿って実施されており、保護者のからも肯定的に評価されていること、絵本への興味喚起など意識へ影響もあることなどが認められた。しかし、意識の変化を行動に結びつけ継続させるためには様々な問題があることも認められた。ブックスタートに関わる各部署が今後更に連携を深めて取り組む必要があると考える。

また、幼少時の読み聞かせ経験の有無が成長後の意識に影響する可能性が示唆されたことから、ブックスタートの果たす役割の重要性を改めて提言し、さらなる地域の活性化と育児支援につなげていくことを今後の課題としたい。

文献

- コンビ株式会社 (2010). お悩みアンケート～育児編～子育てが「つらい」と思う時 妊娠・出産&口コミ情報サイト・コンビタウン<<https://www.combibaby.com/c/1438>> (2020年4月19日)
- 原崎聖子・篠原しのぶ・彌永和美・渡邊晴美 (2016). ブックスタート経験が保護者及び児童に与える影響——小学6年時追跡調査 福岡女学院大学紀要人間関係学部編, 17, 61-68.
- 梶浦真由美 (2002). 北海道恵庭市におけるブックスタート(その1)——その取り組みと成果 日本保育学会大会発表論文集, 55, 162-163.
- NPO ブックスタート (編著) (2014). 「ブックスタートがもたらすもの」に関する研究レポート NPO ブックスタート
- 小学館 (2019). パパママの教養 HugKum (はぐくむ) <<https://hugkum.ho.jp>> (2020年4月18日)